
リボーン×マイソロ 3 + エクシリア雪、舞い散る

カラオケ大好き

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

リボーン×マイソロ3+エクシリア雪、舞い散る

【NNコード】

N1887Z

【作者名】

カラオケ大好き

【あらすじ】

ルミナシアに平和が戻り、アドリビトムは、解散…………と思つたら、突如世界樹が光り出し、気が付くと…………コレはリボーンとテイルズオブザワールドディアントマイソロジー3のクロスオーバーです。オリジナルでエクシリアの人達が数人アドリビトムにいます。

只今、オリジナル編執筆中

キャラ設定（前書き）

初の連載です。皆様アドバイスを下さい。苦情でも構いません。意見を下さい！

キャラ設定

キャラ設定

雪月

桜花

年齢：外見14歳

性別：女

見た目…白っぽいピンク（翼田く桜色）を肩くらい伸ばしてゐる。また、頭に左右にリボンを付けたカチューシャをしてゐる。田の色は薄い緑。

好きな物・事…友達アドリビトム、雪、月、桜、翼（恋愛感情）、料理

嫌いな物・事…友達・アドリビトムに害を齎す奴ら、ボンゴレファミリー（ウ、アリアーは友達）、勉強、マフィア

性格…友達とアドリビトムには明るく、その他は冷たい。

神裂
かんざき

翼
つばさ

年齢：17歳

性別：男

見た目…黒い髪をツンツンにしてゐる。目の色は碧色。

好きな物・事…アドリビトム、桜花が認めた人達、伝説、神話、親分と剣の手合させをすること。

嫌いな物・事…アドリビトムに害を齎す奴ら、神話と伝説をオカルトと侮辱する奴ら、マフィア。

性格…普段は爽やかで明るいが、嫌いな奴らには普段の彼とは思えない冷たい目つきで睨む。

佐々木 八重
ささきやえ

年齢：12歳

性別：女

見た目…ハニー・ブロンドの髪を結び田の所を三つ編みにしたツイン

テール。目の色は、赤紫色

好きな物・事…甘い物、またソレを作れる人、可愛い物、翼（恋愛感情）

嫌いな物・事…自分の使命・宿命、自分自身、友達以外の人

性格：冷たい印象が有るが本当は只の人見知り（嫌いな人には本当に冷たい）。可愛い物・甘い物を前にすると、歳相応の表情になる。

佐々木 ささき 零 ぜろ

年齢：22歳

性別：男

見た目…ハニー・ブロンドの髪を腰くらい伸ばして、一つに結んでいる。目の色は、銀色。

好きな物・事…刀の手入れ、刀集め、翼と手合わせ

嫌いな物・事…人を傷付ける奴、偽善者

性格：表情が固く、何を考えているのかよく分からない。生き別れた妹を探している。意外と面倒見が良い。

オリジナル属性…雪

役目：「ファミリーに害を齎す者を覆い溶け逝く雪」

ボンゴレの雪の守護者…桜花（本人は守護傭兵と言っている）

雪のアルコバレー／ノ…八重（零は才能が無いと言われ家を追い出された）

ウ…アリアーの雪の守護者…翼

キャラ設定（後書き）

コメントを待っています。

プロローグ

ルミナシアの問題点だったホスチアの問題も解決し、ディセンダーの少女、雪月桜花も帰つて來た。このアドリビトムも預かりのメンバーは今日、アドリビトムから解散することになった。

「淋しくなるわ。居なくなるなんて」とアドリビトムのリーダーのアンジュは呟いた。すると、「…オ…オイ！世界樹が…」とメンバーの誰かが唐突に叫んだ。皆、世界樹を見ると「世界樹が…光つてる…」そう、世界樹が光つているのだ。余りの眩しさに皆目を閉じた。そして目を開けたら、そこには「…男の…人？」男の人が居た。

始めに

この小説は、私の趣味です。だから更新は不定期です。またオリジナルキャラの男、翼が恋愛フラグを建てまくります。OKな方のみ、下にスクロールして下さい。

翼に恋愛感情を抱くキャラ達

オリジナル…雪月桜花、佐々木八重 2人マイソロ3…カノンノ・グラスバレー、リタ・モルディオ、プレセア・コンバティール 3人
リボーン…笠川京子、凪（クローム觸體）、ユニ 3人

合計8人

この小説は、先ずは桜花か八重のどちらかEndを執筆しますが、本編が終わったら他のキャラのルートも執筆して行きたいと思っています！

駄文だし、不定期更新ですが、頑張ります！

新たな戦いの幕開け（前書き）

自分がイメージしているこの小説のOPとEDを書きます。

第一期OP： Flyaway（テイルズオブザワールドレディアン
トマイソロジー2 OP）

第一期ED： 蒼い春（TVアニメ「生徒会役員共」 ED）

新たな戦いの幕開け

あらすじ……世界樹が突如光り輝き、光が収まつた時、アドリビトムの拠点バンエルティア号の甲板に、ハニー・ブロンドの髪を腰くらいにまで伸ばしている謎の青年が氣絶していた……

「……とにかく、彼を医務室に運んで。それから、何かあつた時の保険として、皆には悪いけど……さつきの人が目を覚ますまで此処に居てくれる?」と、アンジューが創設時代以外のメンバーに問い合わせた。皆、暫くの間は居てくれると言つてくれた。しかし、黒髪の青年ユーリ・ロー・ウェルが、「嫌な予感がする……」と言つて皆から怒られた。彼の悪い予感は良く当たるので、怖いのだ。「……私、あの人の様子、見て来るね」と言い、桜花は医務室に向かつた。

(?)視点)

オマエハサイノウガナイ オマエハモウイラナインザイダもう何度も言われ続ければ、俺は大人達の悪口に何も感じなくなつた。俺は才能が無い。ソレは俺が一番分かっている。オオ ウマレタツイニ ウマレタ サイノウヲモツコガ ミコガ待てお前達、あんなふざけた事をこの子にも行わせるのか!

オマエハモウイラナイ ミコガウマレタカラ サイノウガナイオマエハ……デテイケ

待て!待つてくれ!

けど、遅かつた。段々と遠ざかる。あの子……名前も知らない妹が自分勝手な親のせいだ……

「……やめろ……」

(?)視点 End~

「……やめろ……」どうなされ声が聞こえ、桜花は医務室のベッドで

眠る青年に田線を向けた。そこには、銀色の瞳で何度も部屋を見回している青年がいた。

「大丈夫？ あなた、空から降つて來たもん。驚いたよ」と桜花は青年に言った。「そうか……ところで、此処は何処だ？ 窓の景色を見ても、並盛とは思えないが」と、青年は桜花に尋ねたが桜花は青年の言つた並盛というのが分からなかつた。つまり、この青年はカイル達同様、ルミナシアでは無い世界から來たということを表している。「……えーと……此処は並盛じゃなくて、ルミナシアっていう世界。つまり、あなたは異世界に來たの。そして此処は、ギルド」「アドリビトム」お金を支払えば、その依頼を行うの」と、桜花は青年に説明した。青年は暫く考え込み、桜花に言つた。「……俺の依頼を聞いて貰えるか？」

コレが、新た戦いの幕開けの瞬間だった

新たな戦いの幕開け（後書き）

感想、お待ちしています。

零の依頼（前書き）

あらすじ

目覚めた零から依頼を聞こうとした桜花だが、アンジューに起きたら連れて来てと言わされたので、2人は、アンジューの居るバンエルティア号のホールに向かった：

零の依頼

依頼を聞く前に、彼佐々木 零が目覚めたといふことで、一度彼をホールに連れて行った。

ホール

「皆。あの人起きたよ~」と、桜花はアンジューとホールに居るメンバーに報告した。「起きたね。ソレで、桜花が依頼が有るって言ってたけど、何か依頼が有るのですか?」と、アンジュー・セレーナが青年、佐々木零に問い合わせた。「ああ。俺の依頼は、生き別れた妹を助け出すことだ。名前は知らんが佐々木という名字と俺と同じハニーブロンドの髪が特徴だ。後、妹はこのルミナシアでは無い並盛つまり異世界からの人間だから、先ずは、並盛へ帰る方法を探してくれないか」と、言い零はホールを離れようとしたら、「待つて」と、アンジューに呼び止められた。「依頼は良いけど、相応の報酬を貰うわよ。あなた、所持金はいくらかしら?」と、アンジューは言った。このシスター、金に貪欲である。と、思つたが声に出してはいけない。と、感じた零だった。

その後、零は母親の形見のペンダントを渡そとしたら、皆から却下され、アドリビームのメンバーになるということになつた。

零の依頼（後書き）

次回予告

零をメンバーに入れ、今まで以上に賑やかになつたアドリビトム（祖国に帰る予定のメンバーは引き続きメンバーとして残つた）果たして並盛へ行く方法は見つかるか？

次回、異世界への行き方

最強パーティー（前書き）

あらすじ

アドリビットムに入った零。しかし、突然の惨劇を前に.....

最強パーティー

「じゃあ、メンバー登録しておいたから。今日からよろしくね、零」

「承知」

コレを期に、佐々木零はアドリビトムの一員になつた。

（零視点）

俺、佐々木 零は只今ピンチである。

ソレは俺がアドリビトムに入り、数日後のことだった。

俺は今日も依頼を熟し、バンエルティア号に帰つて来た時のことだつた。しかし、帰つて来たらバンエルティア号に居るメンバーが全員倒れていた。そして、バンエルティア号中に漂う謎の異臭（嗅ぎすぎたら嗅覚が麻痺した）一体、何が起こつたのか？と、思つたら、「あ、零」「良い所に」「ねえ零。私達ね、料理を作つたの」と、アーチェ・クライン、リフィル・セイジ、ナタリアの3人。別名必殺 料理人 が俺の前に立ちはだかつた。つまり、倒れているメンバーはこの3人の料理を食べさせられたようだ。そして、今此処に居る味見係は俺だけ。つまり、「「「食べててくれる？」」「」と、案の定言われた。皆が言つていた敵はメンバーの中にも居る。といふのは正にこのことだつた。済まない、妹よ。俺はお前をあの家から救い出す前に逝くかもしぬ。覚悟を決め、俺は悪魔の巣（食堂）に向かつた。その後のことは余り覚えていない。だが、目覚めたらソコは医務室だつた。話によると、あの後バンエルティア号に帰つて来た桜花・翼・カノンノ・プレセア・の4人が3人を見事倒したそうだ。流石アドリビトムの最強パーティーだ。

（零 視点End）

アドリビトム毒殺未遂事件から数日後、並盛へ行けないアドリビトムのメンバーの元にとある人物がやつて來た。

「なあ、お前達。世界樹が可笑しいんだ。見て來てくれるか？」と、

金髪の美女、ミラ・マクスウェルから依頼が来た。並盛に行く方法かもしないので、最強パーティーに、零と分析担当のリタを連れて世界樹へ行くことになった。

世界樹の洞窟

世界樹はルミナシアの始まりの樹だ。だからその大きさは、空を飛べる船バンエルティア号に乗つて初めて解るのだ。まるで、天に届く様な大きさを誇る世界樹。その樹の根本の所に、根と根同士がアーチを作つた様な洞穴が有る。ソコが 世界樹の洞窟 だ。

「世界樹がおかしいって、何があつたんだろ…」と、桜花が呟いた。「とにかく、もしかしたら並盛に行ける手がかりが有るかも知れないわよ。速く行きましょ」と、リタが言い、一行は歩きだした。

最強パーティー（後書き）

次回予告

世界樹の奥にたどり着いた桜花達。そこで目にしたものとは……
次回、異世界トンネル

異世界トンネル（前書き）

あらすじ

世界樹の様子が可笑しいところついで、世界樹の洞窟に来た桜花達。
そこで目にしたものとは……

異世界トンネル

出てくる魔物を倒しながら、桜花達は世界樹の奥を目指す。「着いた。此処が世界樹の洞窟の奥だ」と、翼が言い桜花達はソコで有るものを見た。それは、空間の歪みだった。それからリタはすぐに歪みの解析を行つた。「…この歪み、どこか別の世界に繋がつてゐるしかしたら並盛に行けるかもしれない。つまり、コレはある種の異世界トンネルってこと」と、リタが解析を終わらせ言つた。「では、並盛に行けるのか!?」と、零が尋ねた。コレで妹をあの家から救い出すことができる。と、思つて空間に近づこうとしたら、皆に止められた。「落ち着け。まだアレが並盛に繋がつてゐるかが分からぬ。たとえそつたとしても、先ずはあの歪みを調整しないと、変な所に転移させられる」と、翼が説得し、零は踏み止まつた。「じゃあ、私が空間を調整するついでに偵察するよ。それならこの歪みを調整できるし、並盛に繋がつてゐるかも分かる。一石二鳥よ。並盛のことなら、よく零が話しているから想像は付くわ」と、桜花が言つた。「…分かった。でも、無理はするしないで。ヤバいと思つたらすぐに引き返すこと。いいね」と、カノンノが言い、「桜花さん…必ず帰つて来て下さい。貴女の居なかつた3ヶ月、アドリビトムは、淋しかつたです」と、ブレセアが言つた。「…分かったは絶対に無茶はしない」と、桜花は言い、「…行つてきます」と、言つて空間に飛び込んだ。

桜花は、歪んだ空間を少しずつ調整しながら、前へ進んだ。そして、調整しながら歩くこと数時間、日の前に光が差し込んだ。桜花は覚悟を決め、光へ飛び込んだ。

桜花が、空間に飛び込んだ頃、世界樹の洞窟では零が翼達から桜花の話を聞いていた。「ディセンダー?」「嗚呼。ルミナシアは3ヶ月前までは、ホスチアを巡つて色々な国が戦争をしていました。しかも、

今はもう平氣だがホスチアが枯渴するたびに戦争は激しくなつた。

そんな時に現れたんだ。ルミナシアに伝わるお伽話に出てくる『世界樹から生まれ、ルミナシアを救済する勇者』ディセンダーが。そのディセンダーがあの子、桜花だ。桜花は、普通の奴らには出来ないホスチアの操作をやることが出来た。その時は、俺達は『ディセンダーみたいとしか見てなかつた。だけど、セルシウスが言った。あの子が、ディセンダーだと。それでまあ一色んなことがあって、今はこうして平和なんだ。それで、お伽話だと、ディセンダーは世界樹に還っちゃうけど、俺達の知ってるディセンダーは戻ってきた。以上。コレが桜花の眞実。だが、あの子はアドリビームのメンバー、大切な仲間だ』（…だから、無茶…するなよ…）

光に飛び込んだ桜花は、たどり着いた。零の暮らしている世界に。「…此処が…並盛…」彼女がたどり着いた所は並盛神社という所だった。後ろを振り向くと、神社の後ろに有る林から、ホスチアの流れが見えた。深追いは禁物と思い、桜花はホスチアの流れを追う様に林の中に入つて行つた。

桜花が、並盛にたどり着いた頃、空間の観察をしていた翼達にも変化が訪れた。「歪んだ空間が、正常なワープ空間になつた！」と、リタが叫んだ。ソレは、桜花の偵察が成功したということだった。そしてその数十分後、桜花は帰つて來た。「ただいま！あとこの空間、やっぱり並盛に繋がつてた！」と、言つた。「…そうか」と、桜花の報告を聞いて零は安堵のため息を出した。「まあ今回は、あくまでも空間を確かめる依頼だったから、並盛に行くのは明日にしよつ」と、翼が言い、一行はバンエルティア号に戻つて行つた。

（數十分前）

並盛への空間トンネルを完成させて、戻るうとした桜花だったが、「あの子を…あの宿命から解放して…お願ひ…誰か、私の声を聞いて…」と、泣いている女性の声が聞こえた。「…！？誰だ…」と、

スカートに隠れている足の部分に付けていたホルダーから、二丁拳銃を引き抜き辺りを警戒する桜花。だが、まるで今の声は空耳だったかの様に、林にはまだ静寂が訪れていた。（…気のせい？）と思いつい桜花は空間が繋がっている古い鳥居をくぐつて行つた。「来てくれた。私の声が聞ける人が…やつと、私達は救われる」という女性の声が聞こえた様な気がした。

異世界トンネル（後書き）

次回予告

並盛に来た桜花、カノン、リタ、プレセア、翼、零。翼に好意を抱いている4人は、翼にある選択をさせる。そして、また新たなivarlが生まれる！？

次回、並盛偵察デート（桜花ルート）

次回は遂に分岐ルート話です！

並盛偵察デート（桜花ルート）（前書き）

今回は遂に分岐ルート！

並盛偵察デート（桜花ルート）

並盛へのトンネルを完成させた次の日、昨日と同じメンバーで、再び世界樹の洞窟にやつて来た。

今回は、並盛に偵察に行くのだ。桜花達は、トンネルをぐぐつて並盛に転移した。

「此処が並盛だ」と零は言い、妹を探すために、手分けして探しにになった。零は商店街、リタは並盛中学校の方面、プレセアは中央公園、カノンは住宅街、桜花はオシャレなグッズの店が立ち並ぶ街の方面を探すことになった。しかし、翼だけが探す場所が無かつた。すると、「では、翼は4人の内の誰かと行動をすればいいと思う」と、言い零は「では17時に神社に集合だ」と、言い去つて行つた。「…じゃあ…」

雪月 桜花は今、究極の緊張状態だった。その理由は、「大丈夫か？桜花」そう。好意を抱いている少年、神裂 翼と二人つきりなのだ。

「数分前」「じゃあ…桜花。一緒に行くか？」と、言い翼は桜花と共に探索に向かつて行つた。

（カノンノ視点）

「…はあ…」と、私カノンノ・グラスバレーは何度なのか分からないため息を吐いた。翼が、桜花を選んだ理由はきっと何と無くだと思う。

私は…ううん。私と桜花とリタとプレセアは、神裂 翼のことが好き。しかも4人共、恋愛感情の好きなんだ。そこで、私達はとある団体を作ったの。【この中の誰が選ばれても、後悔しない様に、恋に精進せよ団】通称、【KKK】団を創立させた。コレは、いつか

私達は彼に告白をする。その時、彼が誰を選んでも後悔しない様に、自分の好意を彼に気付かせる。という名目で造った団体だ。だけど、彼・翼は凄い鈍感で、全く進展しないんだ。「……はあ……」私はもう何度なのか分からぬため息を吐いた。

（カノンノ視点End）

「ねえ、翼。何で私を選んだの？（多分何と無くかな）」と、桜花は翼に問い合わせた。すると翼は「ウーン…何と無く」と、桜花と力ノンノの予想通りの答えを返した。（やつぱり…でも、今回は少しでも翼に私の気持ちに気付いて貰うんだから！）と、決意をし、桜花は翼と街を歩き出そうとしたら、ナンパされている少女を見た。

「君、かわいいーね」「俺達と一緒にランデブーしない？」

（携帯を取り出す）と、3人のチャラ男に囲まれて困っている少女。周りを見るが、周りの人達は皆、見て見ぬフリをし、通り過ぎて行く。または、遠目から見ているだけで、少女を助ける人は出てこなかつた。2人を除いて、「オイ。その子困っているだろ。離れろよ」「てか、貴方達も他人のフリをせずに助けなさいよ！」

と、言いながら翼と桜花は3人の所に来た。「何だテメエ達は？」

「なあ、あのメッシュの子も可愛くね？」（携帯を構える）

と、チャラ男達は言うが、「桜花。あの子を頼む。俺はあのチャラ男達をぶん殴る」「リヨーカイ」と、チャラ男達の話を無視した。「テメエ達、オレ様達の話を無視することは、病院送りつてことを意味するぜ」と、言い、チャラ男達はナイフやバットを取り出した。しかし、2人は怯むこと無くむしろ近づいて行つた。そして、先ずは携帯を持っているチャラ男の携帯を目に見えぬ速さで奪い、破壊した。「（俺の携帯が…）と、驚愕しているチャラ男を背後から、桜花が背中に回し蹴りを喰らわせて転ばせた。その後桜花はナンパされていた少女を連れ、翼の様子を見た。

翼は先ずはナイフを持ったチャラ男の懷に潜り込み、「破壊拳」！と、拳を相手の腹にめり込ませて、アッパーを喰らわせた。次に先程桜花に蹴られて転んでいたチャラ男が起き上がり、近くにあ

つた鉄パイプを持つて走るが、翼はソレを簡単に回避し、「「壊芯脚」！」と言いながら、相手に蹴りを入れた。相手は5Mくらい飛ばされた。バットを持ったチャラ男はソレを見て逃げようとしたが、「「三斬華」！」と言いながら、拳の三連突きを喰らわせた。

「君、かわいいーね」「俺達と一緒にランデブーしない？」

：（携帯を取り出す）と、3人のチャラ男に囲まれて困っている

少女。周りを見るが、周りの人達は皆、見て見ぬフリをし、通り過ぎて行く。または、遠目から見ているだけで、少女を助ける人は出てこなかつた。2人を除いて、「オイ。その子困つているだろ。離れるよ」「てか、貴方達も他人のフリをせずに助けなさいよ！」

「なあ、あのメッシュの子も可愛くね？」

：（携帯を構える）

と、チャラ男達は言うが、「桜花。あの子を頼む。俺はあのチャラ男達をぶん殴る」「リヨーカイ」と、チャラ男達の話を無視した。「テメエ達、オレ様達の話を無視することは、病院送りつてことを意味するぜ」と、言い、チャラ男達はナイフやバットを取り出した。しかし、2人は怯むこと無くむしろ近づいて行つた。そして、先ずは携帯を持っているチャラ男の携帯を田に見えぬ速さで奪い、破壊した。「：（俺の携帯が：）」と、驚愕しているチャラ男を背後から、桜花が背中に回し蹴りを喰らわせて転ばせた。その後桜花はナンパされていた少女を連れ、翼の様子を見た。

翼は先ずはナイフを持ったチャラ男の懷に潜り込み、「「破壊拳」

！」と、拳を相手の腹にめり込ませて、アツバーを喰らわせた。次に先程桜花に蹴られて転んでいたチャラ男が起き上がり、近くにあつた鉄パイプを持って走るが、翼はソレを簡単に回避し、「「壊芯脚」！」と言いながら、相手に蹴りを入れた。相手は5Mくらい飛ばされた。バットを持ったチャラ男はソレを見て逃げようとしたが、「「三斬華」！」と言いながら、拳の三連突きを喰らわせた。周りからは拍手が湧いたが、翼と桜花は周りの人達を睨みつけ、少女を連れてこの場から離れた。

「君、大丈夫か？」と、翼はナンパされていた少女に問い合わせた。「うん平気。ありがとう、助けてくれて」と、少女は言った。「そうか。なら良かった。そうだ。君、この辺の人で、ハニー・ブロンドの髪の女の子って、知ってるか？」と、翼は少女に尋ねたら、「もしかして八重ちゃんのこと?」と、少女は言った。「…！？君…って、今更だけど君の名前を教えてくれる？俺は神裂 翼」「そう。私は、笹川 京子。よろしくね、翼君。それで、八重ちゃんのことだっけ。八重ちゃんは私の通つてる並盛中学校の私のクラスの委員長だよ」と、翼の質問に京子が答える。すると、「翼、君。ジュー入買つて來たよ」と、言いながら、桜花が戻ってきた。「センキュースを受け取りながら言つた。「私は雪月 桜花よ。よろしくね、京子」「うん！よろしくね、桜花ちゃん」と、言い桜花達はジュー入スを飲みながら、佐々木 八重について京子から聞ける限り聞いた。それからは一緒に街を見て廻つた。一緒に遊んでいると、もう16時45分だった。「あ…京子。そろそろ俺達帰るけど…」と、言い、翼は京子にとある箱を渡した。「付き合つてくれた御礼だ。ありがとな」と言い、翼は京子の頭を撫でた。すると京子は顔を赤くして俯いた。「（なつ…ライバルが増えた！？）翼！さつさと行くよ！じゃあね京子。今度その、おいしいケーキ屋のこと教えてね！」と、言い桜花は、翼を連れて走り去つた。

（京子視点）

【今日は、桜花ちゃんっていう、友達だけどライバルの女の子と、翼君っていう…人にお会いしました。それで、翼君のことを思うと、顔が熱くなります。もしかしたら、私…翼君に…恋をしたのかもしない。】と、日記を書き終えた私は、目線を日記帳の隣にある物に向かた。ソレは、今日の帰りに翼君がくれたオレンジ色と黄色のチェック模様のヘアピン。（…神裂 翼君…か）と、翼君のことを

思つたら顔が熱くなり、私はソレを紛らすためにベッドにダイブした。

私、 笹川 京子は……神裂 翼に恋をした。～京子視点～

「あつ。 そうだ、 桜花。 お前何かとある店でコレを見てただろ」と、言い翼は桜花に物を渡した。ソレは、左右に黄緑色のリボンが巻かれている茶色のカチューシャだった。「何か……桜花コレ見てたし、あと……個人的な意見だけど、このカチューシャお前に似合いそうな気がしたんだ。桜みたいで……」と言い、翼は歩き出した。桜花は、その翼の背を追う様に歩き出した。

「じゃあ、報告する。先ずは俺達から。零の妹の名前は、佐々木八重。並盛中学校に通つてる」と、言い報告を終え、他の報告を聞いた。「私は、その八重つていう子、いつも靈園に毎晩行つてることだよ」と、カノンノが言い、「私は、八重さんは甘い物と可愛い物が好きと聞きました」と、プレセアが言い、「私はその八重つて子、変な部活を造ろうとしてるらしいの。何か【神話追究部】つていう部活名らしいよ」と、リタが言い、「俺は、佐々木家からいつも深夜に家を出て行く八重を見るという話を聞いた」と、零が言った。と、それぞれの話を聞き、アンジュに報告をするために、ルミナシアに帰つた。

【あの子を を助けて 私達を解放して…】

また、女性の声が聞こえたが、翼達には聞こえて無い様子だった為、黙つておくことにした。

その日の夜、桜花は不思議な夢を見た。とても悲しい夢だったが、目を覚ましたら忘れてしまつた。でも、とても悲しい夢だったのは覚えている。

並盛偵察デート（桜花ルート）（後書き）

次回は、今回の話のカノンノルートです！

並盛偵察データー（カノンノルート）（前書き）

今回は前回の話の、カノンノルートです。

並盛偵察デート（カノンノルート）

並盛へのトンネルを完成させた次の日、昨日と同じメンバーで、再び世界樹の洞窟にやつて来た。

今回は、並盛に偵察に行くのだ。桜花達は、トンネルをぐぐつて並盛に転移した。

「此処が並盛だ」と零は言い、妹を探すために、手分けして探しにになった。零は商店街、リタは並盛中学校の方面、プレセアは中央公園、カノンノは住宅街、桜花はオシャレなグッズの店が立ち並ぶ街の方面を探すことになった。しかし、翼だけが探す場所が無かつた。すると、「では、翼は4人の内の誰かと行動をすればいいと思ふ」と、言い零は「では17時に神社に集合だ」と、言い去つて行つた。「…じゃあ…」

カノンノ・グラスバレーは、只今極限の緊張状態だった。その理由は、「大丈夫か? カノンノ」と、好意を抱いている少年、神裂 翼と二人つきりだからだ。

（数分前）

「じゃあ… カノンノ。一緒に行くか?」と、言い翼はカノンノと、住宅街に向かつた。

（リタ視点）

私は、神裂 翼が好きだ。その他にも、桜花・カノンノ・プレセアも、翼が好きだ。それで、私達は【KKK団】を創立させ、翼を振り向かせようとしてるけど、翼が鈍感なせいで、全く進展しない。でも、いつか必ず…

（リタ視点End）

翼とカノンノは、住宅街を歩きながら、零の妹の情報を集めていた。

「この辺に、ハーブロンドの髪の女の子のこと、知ってる？」と、カノンノと、翼は道行く人達に聞いたが、分かつたのは、その女子の名前の佐々木。八重だけだった。すると、新たな手掛かりを手に入れた。「嗚呼。八重ちゃんは、毎晩深夜になると、靈園に行くの」と、おばあさんが言った。「なあ、カノンノ。一度その靈園に行つてみるか？」と、翼は言い、カノンノも、「分かつた」と言い、靈園に向かつた。

「此處が、靈園か……」と、言つて翼達は靈園に足を踏み入れた。そこで、彼らは一つの墓石を見つけた。ソコには【佐々木】と、書いてあつた。肝心の名前が、土埃や苔で分からなかつたが、きっと八重と零の家族の墓石だろう。「…？（何だろう。今…女人人が居た？）」と、カノンノは靈園を見回したが、靈園には、翼とカノンノ以外は、誰も居なかつた。（…氣のせい？）と、思いカノンノは、翼と共に靈園を去つた。

「そうだ、カノンノ。神社に戻る前に、何処か寄つてくれ？」と、翼は言つた。「じゃあ、スケッチブックとクレヨンを買いたいから文房具屋に行きたいな」と、カノンノは言い、通行人から、文房具屋の場所を聞き、ソコに向かつた。（…さつきの女人の人、零に少し似ていた。凄く綺麗な人だつた。でも、何か…段々と忘れちゃう気がする。そうなる前に描かないと…）と、思い、カノンノはスケッチブックとクレヨンを買った。

（カノンノ視点）

「なあ、カノンノ。本当にスケッチブックとクレヨンで良かつたのか？」と、翼は私に問い合わせた。「うん。丁度スケッチブックとクレヨンが切れかけてたから」と、私は翼に言つた。スケッチブックとクレヨンが切れかけてたのは本當だし、あの女人の人を翼がジュークスを買ってくれてる間に描きたかったのが、最大の理由だ。その女人は、零と同じでハーブロンドの髪をしていた。でも、その顔

はとても悲しそうだつた。そして、何よりもこのスケッチブックとクレヨンは、私の好きな人、翼が買ってくれた物。ソレがとても嬉しかつた。やっぱり私は翼が好きなんだ。途中、ナンパされていた少女…京子もきっと何と無くだけど、翼に恋をしたと思う。でも、私は……

カノンの視点End

17時、翼達は並盛神社に集まり、それぞれの成果を報告して、今日はルミナシアに戻つた。

並盛偵察データ（カノンノルート）（後書き）

次回は、リタートです。

並盛偵察データー（リタルート）（前書き）

今回はリタルート

並盛偵察データ(リタルート)

並盛へのトンネルを完成させた次の日、昨日と同じメンバーで、再び世界樹の洞窟にやって来た。

今日は、並盛に偵察に行くのだ。
桜花達は、トンネルをくぐつて並盛に転移した。

「此処が並盛だ」と零は言い、妹を探すために、手分けして探しにになつた。零は商店街、リタは並盛中学校の方面、プレセアは中央公園、カノンノは住宅街、桜花はオシャレなグッズの店が立ち並ぶ街の方面を探すことになつた。しかし、翼だけが探す場所が無かつた。すると、「では、翼は4人の内の誰かと行動をすればいいと思う」と、言い零は「では17時に神社に集合だ」と、言い去つて行つた。「……じゃあ……」

リタ・モルティオは緊張していた。なぜなら、「…大丈夫か? リタ」と、リタの片思いの相手である神裂 翼と一人つきりだからだ。

プレセア視点

私は、神裂翼さんのことが好き。でも、猫が好きの方のlikeでは無くloveの方の好きなんです。でも、翼さんは鈍感なんですね。だから全然気持ちが伝わりません。でも…いつか必ず…

プレセア視点Ends

「此処が並盛中学校か？」と、リタは翼と共に、並盛中学校にたどり着いた。早速、零の妹の調査をしようとしたが、「君達、誰？ 侵入者？」と、謎の少年が尋ねて来た。

と言い、少年はトンファーを構えた。「たく…先ずは黙らせるか」と、眩き翼は少年に接近した。「先ずはコレだ!【三斬華】」と、翼は三連突きを行つたが、「ワオ。面白いね」と、少年は難無く防御した。すると、「くらえ!【ファイアーボール】」と、リタが少年に5~6個の火の玉を飛ばした。しかし、少年はソレを難無く回避し、リタに接近した。「…リタ!（くつ。仕方ないが、アレを使うか）」

翼は足元にホスチアを収束させた。そして、【世界樹を守護せし大地の力、我が声に応え力を捧げよ（…15%で良いぞ…ノーム）】と、唱えた。そして、大地が、空が、全てが揺れた。

（桜花視点）

（精靈の力が解放された。…こんなことできるのは、クラトスとお父さんと叔父さんとミラとイバルと私と…翼だけ。もしかして、翼に何かが起こつた?）翼の無事を祈りつつ、私は零の妹の手掛かりを探した。（翼、リタ…無事でいて…）

（桜花視点End）「…はあ…はあ…俺達の…勝ちだ…俺達はただ、零の妹の手掛かりを…知りたいんだ。教えてくれ。佐々木つていう、ハニーブロンドの髪の女の子のことを…」と、翼は少年に尋ねた。リタは倒れそうな翼を支えている。「…佐々木…八重。この中学校でハニーブロンドの髪の女子は佐々木…八重しかいない」と、少年は言った。「他に、八重のこと。知つてることがあつたら教えてくれ…」「…佐々木…八重は、顧問もない、部員も本人以外誰もない部活の申請書を、いつも僕に持つて来る。【神話は作り話なんかじゃ無い。実際に存在する。私はソレを追究して証明するための部活が、場所が欲しい】」って。毎日毎日持つて来るんだ。神話なんて、所詮作り話なのに」と、少年は言い終えたら、「…何が、何が作り話だ…糞ガキ。神話は…実在してるんだよ」と、翼が地面に拳をたたき付けながら言った。「…帰るぞ、リタ。こんな神話を侮辱する奴が居る所になんて長居したく無い」と言い終えたら、翼はり

タと共に並盛中学校を去つて行つた。

「そうだ、リタ。少し寄つて欲しい所がいくつかあるんだ」と言い、翼は街へと赴いた。ソコで京子と出会い、とある物を買い、京子と別れた。

「リタ。プレゼントだ」と、言いながら翼はリタに猫のストラップを渡した。「あ…ありがとうございます」と、リタも顔を赤らめながら、受け取つた。「じゃ、並盛神社に行きますか」と言い、翼とリタは神社へと赴いた。その後、報告をそれぞれ発表し、ルミナシアへと帰還した。

並盛偵察データー（リタルート）（後書き）

次回はフレセアルート

並盛偵察データ（フレセアルート）（前書き）

今回はフレセアルート

並盛偵察データ（フレセアルート）

並盛へのトンネルを完成させた次の日、昨日と同じメンバーで、再び世界樹の洞窟にやつて来た。

今回は、並盛に偵察に行くのだ。桜花達は、トンネルをぐぐつて並盛に転移した。

「此処が並盛だ」と零は言い、妹を探すために、手分けして探しにになった。零は商店街、リタは並盛中学校の方面、フレセアは中央公園、カノンノは住宅街、桜花はオシャレなグッズの店が立ち並ぶ街の方面を探すことになった。しかし、翼だけが探す場所が無かつた。すると、「では、翼は4人の内の誰かと行動をすればいいと思ふ」と、言い零は「では17時に神社に集合だ」と、言い去つて行つた。「…じゃあ…」

フレセアは只今緊張気味だった。なぜなら、「大丈夫か?」フレセアと、フレセアが好意を抱いている少年、神裂 翼と二人つきりだからだ。

（桜花視点）

私は翼が好き。でも、彼は気付いてくれない。でも、私は翼以外の人を好きにはなれない。たとえ、翼に振られても、名前をくれた貴方のことが…

（桜花視点End）「じゃあ、零の妹の情報を集めるか」「はい」

（数分後）

「集まつた情報を確認するぞ。零の妹の名前は佐々木 八重。噂だと、甘い物と可愛い物が好き…か」「可愛らしい一面がありますね。零さんの妹だから男らしい方かと思いました」「…零の妹…俺も少し思つた。そうだ!フレセア、街に大型のゲーセンが出来たらしいが、行くか?」と、翼は提案して來た。「…UFOキャッチャー…」

「猫のぬいぐるみの機種があれば、やってプレゼントしてやる」

「！猫、本当ですか？」「嗚呼。俺のゲームの腕前、知ってるだろ」

「…分かりました。行きましょう」と、会話を終え、翼とプレセアは街へと向かつた。途中、迷子になりかけたが、偶然ナンパされていた京子を助け、お礼にゲーセンまで案内してもらつた。

「楽しかったな、プレセア」「はい。この猫のぬいぐるみ、大事にしますね」ゲーセンで沢山遊び、プレセアのために、UFOキャッチャーの猫のぬいぐるみを取り、他の3人と、案内してくれた京子のプレゼントを行い、別れ際に京子にプレゼントを渡し、翼とプレセアは、神社へと向かつた。その間プレセアは、猫のぬいぐるみを大事そうに抱いていた。そして、話を聞いて一同はルミナシアへと帰還した。

並盛偵察データ（フレセアルート）（後書き）

次回はその頃の零。つまり、単独で調査をしていた零の話です。

その頃の『令』？（前書き）

今回は単独行動をしていた零の話です。また、この話は、一部構成です。

その頃の零？

並盛へのトンネルを完成させた次の日、昨日と同じメンバーで、再び世界樹の洞窟にやつて来た。

今回は、並盛に偵察に行くのだ。桜花達は、トンネルをぐぐつて並盛に転移した。

「此処が並盛だ」と零は言い、妹を探すために、手分けして探しにになった。零は商店街、リタは並盛中学校の方面、プレセアは中央公園、カノンノは住宅街、桜花はオシャレなグッズの店が立ち並ぶ街の方面を探すことになった。しかし、翼だけが探す場所が無かつた。すると、「では、翼は4人の内の誰かと行動をすればいいと思う」と、言い零は「では17時に神社に集合だ」と、言い去つて行つた。「…じゃあ…」

（零視点）

あの4人は翼に好意を抱いている。まあ、翼が誰を選んでも今はどうでもいい。とにかく妹の情報を集めないとな。

（零視点）零が任されたのは、商店街だ。此処は零が、いつも家出をした時に匿つてくれた人達から話を聞いて行く。つまり、昔馴染みが沢山居るから零は此処を選んだのだ。現にこうして歩いていると、「あら零君。大きくなつたね～」「あ、零君だ」「おやぶーん！」と、商店街の叔母さんや、昔、探検隊ごっこをしていた時の隊員達が、12年振りね～と、言いながら零の周りに集まつた。（そうか、あの家から追放されてもう12年か…）と、零は懐かしさと10歳の頃に、捨てられた寂しさに浸りかけたが、すぐに本題に入った。「なあ。12年前に俺に妹が出来たが、知つてるか？」と、聞いたが、商店街の人達は「夜中に商店街を横切るハーブロンドの髪の女の子の姿は見るけど、名前は分からぬ」と答えた。（…佐々木家はこの商店街を通つた先にある…つまり、俺の妹も家

出をしているのか?) と考えていたら、「あ、親分! 」「親父、誰だ? この人? 」と懐かしい声と、その人の息子の声が聞こえた。振り返ると、懐かしい人物がいた。「剛さん、そちらは息子ですか?」

「嗚呼。息子の武だ。武、挨拶しろ」「山本 武です……って、何かアンタ委員長に似てるな。髪の色とか」と、挨拶ついでに、重大な情報が手に入った。「武、その子は俺と同じハニー・ブロンドの髪をして、佐々木という名字だったか! ? 」「はい。佐々木 八重という名前です。どうしたんですか? 」「済まない。何でもない(八重家出…キーワードがバラバラだな。まあ皆の報告を待つか)ところで武、その服装からして、お前は野球部か? 」「え…そうですけど、待てよ…零…あつ! ! もしかして、貴方って親分! ? 」と、山本は零を改めて見た。「嗚呼。確かに俺は、野球の試合はいつも助っ人で出てた。ソレがどうかしたか? 」と、零は答え山本に尋ねた。「いや…今日、練習試合が有るんだけど、皆練習だからって、サボつてさ…コレだと不戦敗しちゃうんだよ。いくら練習でも試合だから、負けたくないんだよ」と、言い山本は、「そろそろ集合時間だから」と言い、去つて行つた。「(…野球か…) なあ、その練習試合は何処で行われるんだ? 」

／山本視点／

練習試合開始まで、あと10分。此処に居るメンバーは8人。野球は最低でも各ポジションの計9人が必要だ。つまりあと1人足りない状態だ。つまり、このままだと不戦敗だ。いくら練習でも、試合だから負けたくないんだ。けど、もう駄目だ。こんな時に、伝説の助つ人の零さんがいたら…

「セーフ!!! 審判、練習試合だから一般人が出場しても問題なし! だよな? 」と、Fate/Zeroのアサシンの仮面を付けた謎の男が言った。の人つて…零さんだよなあ…ハニー・ブロンドの髪が隠せてないし。すると、俺の心の声が聞こえたのか、「…少年。俺のことはZeroと呼んでくれ…Zeroって…思いつ切り自分は零だつてアピールしていますよ…零さん

まあ、練習試合だからお祭り騒ぎで構わないこといつことで、俺達の

練習試合が始まった。

～山本視点～

その頃の零　？（後書き）

次回、遂に試合開始。果たして、Zero（零）を助つ人にして並盛中学校は無事に勝てるか？

その頃の『令』？（前書き）

遂に試合開始！零達は勝てるか！？
ちなみに、今回は生徒の一存のネタを使っています。

その頃の零？

（山本視点）

1回表 僕達が守備で、相手が攻撃だ。ちなみに、ゼ…Zeroさんがピッチャーで、俺はファーストだ。こんな人がピッチャーで大丈夫？と思つてました。Zeroさんのピッチングを見るまで

は…

（山本視点End）

此処からは、会話オンリーです。

山本「ゼ…Zeroさん！？ちょっと戻つて来て下さい！」

Zero「何だ？山本 武よ」

山本「相手のバッターをストライクにさせたのは、凄いし感謝します。でも…ちょっとマネージャーが録画した映像を見て下さい」

Zero「何だ？」

山本「構えて、投げる。ピッチングは問題ありません。でも、問題はその後ですよ。ウチのキャッチャーがボールをキャッチした時、【ズドン！！！】って音しましたよ。普通野球じゃ、こんな音しませんから。しかも相手のバッター、アレもう立て籠もりに人質された人の顔だから。野球あんな顔見るの初めてだよ。そして、ウチのキャッチャー。アレ汗じや無いから、痛くて泣いてるだけだから。青春に汗と涙は付き物だけど、あの涙は痛いだから…まあ…Zeroさん。もうピッチングはしないで下さい。バッティングは本気を出して良いから」

Zero「分かった」

1回裏

山本「Zeroさん！ 戻つて来て下さい！ベース走つてから戻つて来て下さい！」

Zero「山本。ホレ（パン）」

山本「おっ、ハイタツチか（パン）じゃねえよ！」

Zero「今度は何だよ」

山本「まあ…マネージャーが録画した映像を見て下さい」

Zero「どれどれ

(・_・)」

山本「はい。良いバッティングですね。でも、貴方が打ったボールの先にヘリコプターがあるの分かります？そしてその後ヘリコプターが、黒煙上げながら墜落しましたよ」

Zero「な…何のことだ」

山本「イヤイヤ、目を逸らしても記録は残るから。ヘリコプターが墜落した記録が残ってるから。もうZeroさん、助つ人じゃ無くて死神だから。…まあ…とりあえず、救助に行きましょ、続きは後になりますから」

4回表

山本「零さん！戻つて来い！」

Zero「山本 武よ、俺の名は…」

山本「零だろ！今までバレてないって思つているのアンタだけだから！良いから戻つて来い！走れ！さつと来い！」

零「次は何だ？」

山本「零さん…アンタのポジションは？」

零「ファーストだ」

山本「そう。俺とポジションをチェンジしたんだよな」

零「…またマネージャーの映像か…」

山本「分かつてますね。ソレを踏まえた上で見て下さい。ホームラン級のボールを、ありえない速度で走つて、ありえない跳躍してホームラン級のボールを取りましたよ。もう零さんのポジション、ファーストじゃ無いから、オールだから…相手を見て下さい。もう、心が折れますよ…え？どうせ、5回コールドで終わるから最後まで？…まあ…どうせコールドで勝つよな…」

試合終了

～山本視点～

10対0で俺達の勝ち。まあ伝説の助つ人の零さんが来たからなあ……でも、野球つて……試合終了時つて、グランンドにクレーターつて、出来るつけ？皆で頑張つてトンボしてるけど、内心じゃ分かつているよ、トンボじやどうにもならないこと……ちなみに原因を造った零さんは、試合終了と同時に姿を消した。……今度会つたら、グランンドの修理費出させてやる……

～山本視点END～

久々の野球を楽しんだ零は、皆から報告を受けた。（まだ分からないことが多いが、あの家が変なことをしてることは分かった。八重……必ず助けてみせる）決意を新にして、零達はルミナシアへと帰還した。

今日の夜。眠つていたら、他界した母さんの姿を見た。でも、声を掛けようとしたら母さんは消えて、俺は目を覚ました。

その頃の…？（後書き）

次回予告

並盛偵察を終えた桜花達は、アドリビトムに届いた謎の依頼を遂行すべく、並盛に降り立とうとするが…桜花が造った異世界トンネルについて、とある人物達から桜花は呼び出しをされる…

次回、異世界トンネルの秘密

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1887z/>

リボーン×マイソロ3 + エクシリア雪、舞い散る

2011年12月20日14時49分発行